

「尾道市立大学経済情報学部 数理・データサイエンス・A I 教育プログラム（応用基礎レベル）」
自己点検・評価報告（令和7年度）

尾道市立大学 数理・データサイエンス・A I 教育プログラム専門部会

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	専門教育科目である「統計学Ⅰ」、「基礎数学Ⅰ」、「プログラミングⅠ」は1年次後期開講科目、「統計学Ⅱ」、「基礎数学Ⅱ」、「機械学習と人工知能」は2年次前期開講科目、「情報基礎理論」「マルチメディア論」は2年次後期開講科目、「ビッグデータ活用」は3年次前期開講科目である。 専門教育科目である前期開講科目は75.6%の履修者が単位を修得し、後期開講科目は78.5%の履修者が単位を修得している。 経済情報学部の学生が体系的に授業を履修できるように授業科目を編成している。 本プログラムの完成年度は令和8年度であるため、令和7年度末時点で修了者はいない。 新入生オリエンテーションでの周知だけでなく、在学生オリエンテーションやポータルサイトなどを通じて、履修を強く推奨していく予定である。
	学修成果	各学期の中間時点と終了時に学生へ「授業改善アンケート」を実施し、その評価項目から学生への教育効果を分析している。特に、中間時点の「授業改善アンケート」は教員から学生にフィードバックし、授業改善を図っている。 その「授業改善アンケート」において、「教員は学習の目標、課題をはっきり示していましたか。」という評価項目について、前期開講科目は85.5%、後期開講科目は83.3%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。 この結果を各教員にフィードバックすることにより、授業改善を図り、教育効果を高めていく
	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「授業改善アンケート」において、「正確な専門知識・技術が学べる授業でしたか。」という評価項目から、学生の理解度を確認した。前期開講科目については88.6%、後期開講科目については83%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。 この結果は本プログラム構成科目の授業内容を改善するための参考とし、次年度の教育プログラムの企画・開発、授業改善の検討材料とする。
	学生アンケート等を通じた後輩等他の学	「授業改善アンケート」において、「この授業に対する総合評価を示してください。」という評価項目については、前期開講科目は82.9%、後期開

	生への推奨度	講科目」は81.1%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。また「授業改善アンケート」の結果を受けて、教員がコメントを行い、改善を図っている。これらのことをオリエンテーションでも周知し、他の学生の履修を促す。
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	既存の専門教育科目をプログラム構成科目に設定し、履修者数の多い科目については複数クラスにする等、履修者数を増やす対策を講じた。 プログラム開始3年目となり対象学年が拡大するため、新入生オリエンテーションや在学生オリエンテーションでプログラム科目の履修を引き続き推奨し、履修率向上を図っていく。
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和8年3月終了時点で本プログラムを修了した卒業生はいないため、自己点検・評価の対象外とする。 今後、本学主催の企業懇談会等の機会を活用して採用担当者へのヒアリングを実施したり、卒業生就職先の企業へアンケート調査等を実施したりなどして、教育プログラム修了者の企業における活躍状況や企業からの評価を調査していく予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	上記同様、本学主催の企業懇談会等の機会を活用して採用担当者へのヒアリングや卒業生就職先の企業へアンケート調査等を実施して、意見や要望を収集する予定である。 また、尾道市公立大学法人が行う「法人評価委員会」では、産業界からも委員を任命している。評価委員会から指摘のあった課題や意見については、改善を行っており、今後は本プログラムについての意見も聴取し、教育プログラムに反映させていく予定である。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「授業改善アンケート」において、「授業の内容は興味深いものだったか。」という評価項目について、前期開講科目については85.5%、後期開講科目については75.9%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。 この結果を各教員にフィードバックすることにより、授業改善を図り、教育効果を高めていく
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	「授業改善アンケート」において、「教員は専門用語をわかりやすく説明した上で用いましたか。」という評価項目について、前期開講科目については81.9%、後期開講科目については79.6%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。 「授業改善アンケート」において、「教員は専門用語をわかりやすく説明した上で用いましたか。」という評価項目について、「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答した割合は次のとおりである。 【前期開講科目】

統計学Ⅱ：85.7%
基礎数学Ⅱ：83.6%
機械学習と人工知能：73.9%
ビッグデータ活用：87.0%

【後期開講科目】

統計学Ⅰ：90.8%
基礎数学Ⅰ：79.8%
プログラミングⅠ：63.9%
情報基礎理論：75.0%
マルチメディア論：81.8%

このことから、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業を実施していることがわかる。

この結果を各教員にフィードバックすることにより、授業改善を図り、教育効果を高めていく。